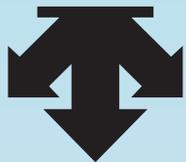


DESCENTE



デサントグループ
CSR レポート 2018

デサントグループは、社会との持続的な相乗発展のために、CSRに対する考え方や取り組みについてステークホルダーの皆様にお伝えしご理解頂くことを目的として「デサントグループCSRレポート」と「Webサイト」を作成しています。

「Webサイト」は、CSR活動全般について網羅的に掲載し、検索性に配慮しています。

本書「デサントグループCSRレポート」は、自社で重要度が高いと判断した内容をISO26000を参照しご報告するとともに、

より多くの皆様にお読み頂きたいテーマを特集ページとして取り上げています。

ステークホルダーの皆様との対話をより深めるために、特集ページでは、当事者や参加者の「Voice（声）」を大切にして、楽しく読みやすいことを目指して作成しました。

本書が、読者であるステークホルダーの皆様にとって、デサントグループが果たすCSRへのご関心・ご理解の一助となれば幸いです。

企業理念

『すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを』

スポーツ本来の「体を動かす楽しさ」、「競い合う楽しさ」を提供することで
一人一人のいきいきとしたライフスタイルの創造に貢献します

SPIRIT OF DESCENTE (創業の精神)

▶創造 / Creation

豊かな発想力は、いつの時代でも発展の原動力である。
センスを磨き、日々の仕事に明確な判断を下せる力を養え。

▶挑戦 / Challenge

変化の時にこそ、チャンスがある。
新しいものを創り出す仕事なら失敗も覚悟のうちに入れよ。

▶誠実 / Integrity

信頼するものには徹底して任せる。
人の誠意に対しては、人の誠意で応えよ。

▶調和 / Harmony

人間が人間を知って初めて商売は成り立つ。
力を集めて前向きに“協走”せよ。

デサントCSR基本方針

1. デサントグループは、企業理念に基づき、スポーツを通じて人々の身体と心を豊かにし、健全なライフスタイルの創造に貢献します。
2. デサントグループは、経済・社会及び環境との関わりの中で求められる期待に、事業活動を通じて応えることによって、社会とともに持続的な相乗発展を目指します。
3. デサントグループは、「デサントグループ倫理綱領」に基づき、国内外において人権を尊重し、関連法令及び国際ルールを順守しつつ、高い倫理観と向上心を持って行動します。

デサントのCSR活動

誠実な
企業活動

人権の尊重

従業員との
かかわり

環境との
調和

公正な
事業慣行

お客様との
かかわり

地域社会との
かかわり

デサントグループ CSRレポート 2018:目次

■ 社長メッセージ	2
■ お客様とのかかわり 競争力の源泉:「モノを創る力」と「売り場を創る力」 特集 第1回 品質事故情報展を開催	3 5
■ 地域社会とのかかわり 産学協同プロジェクト 「すこやかキッズスポーツ塾」2017年度の活動	6 7
■ 従業員とのかかわり	9
■ 海外での取り組み デサントコリア株式会社の環境保護活動	11
■ コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	12
■ サプライチェーンマネジメント	13
■ 環境への積極的な取り組み	14

国連グローバル・コンパクトの一員として

WE SUPPORT



デサントは、理念である「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を支持し、社会の良き一員として責任あるリーダーシップを発揮すると同時に、これから当社グループが一層のグローバル化を進めるうえで、基本となる行動指針として捉えています。そして、持続可能な地球社会の実現に貢献できるよう、より一層、積極的に活動していきます。

株式会社デサント
代表取締役社長 石本 雅敏

報告の対象期間

原則として2017年4月から2018年3月までを対象期間としていますが、当該期間以前もしくは以後の活動内容も含まれています。

全社員で企業理念を成し遂げ、デサントグループの生きがいとする



株式会社デサント
代表取締役社長

いしもと まさとし
石本 雅敏

「モノを創る力」を強化する取り組みを推進

デサントグループは、この1年のうちに「モノを創る力」を強化してきました。商品開発力向上に向けては、日本と韓国にR&Dセンターの建設を開始しました。また複数の大学や専門学校と産学協同プロジェクトを実施し、他社との差別化を図れる商品を開発しました。生産能力向上に向けては、吉野工場を移転して小ロット短納期商品の生産能力と設計開発能力の拡大をおこない、水沢工場の生産ラインを増設するとともに、自社工場4工場すべてで新卒採用を再開しました。グループ内における研究開発拠点や自社工場は、研究・開発、技術・技能の向上、品質管理を実践し、独自の「デサントスタンダード」を高めていく役割があります。生産を委託している海外の工場にも、縫製技術、品質管理方法、効率的なラインの組み方、補修方法などの必要な項目を、自社工場のトレーニング部隊が出張して伝達・指導しています。「デサントスタンダード」を国内、海外の関係工場に伝えていくことは、各ブランドの商品全体のレベルアップにつながります。日本のモノ創りは国内外で評価されてきており、今後も商品の生産を担う自社工場の役割がますます重要になってくることでしょう。

また、「モノ創りの楽しさや難しさ」を肌で感じてもらう機会を提供するために、専門学校の学生と産学協同プロジェクトを行いました。当社から「長時間走っても、体に痛みを感じない・怪我をしないシューズ」という開発テーマを設定し、学生が商品の企画から制作、当社社員に向けての最終プレゼンテーションまでを行う実践的な授業です。学生ならではの柔軟な発想や視点からの斬新なアイデアが盛り込まれたデザインや商品コンセプトだけでなく、人間工学や科学的に裏付けされたアカデミックなアプローチがあり、当社にとって新たな視点を持つ機会となりました。今後もこのような取り組みに積極的に参画していきます。

企業理念を軸にグループの一体感を発揮

グループ社員のモチベーションが1つになることは、企業理念にもとづく活動を進めていく上で重要です。株式会社デサントは2017年4月に分社化し、日本事業を独立させ、デサントジャパン株式会社を設立しましたが、会社が2つになることに

よって社員の心も2つになるのは、あってはならないリスクと考えます。会社を分けるからこそ、より一層、グループの一体感が発揮できるよう様々な工夫を凝らしています。グループが企業理念を軸に動いていることを再認識し、全員がその軸のもとで行動できるよう「企業理念推進委員会」を立ち上げ、企業理念と4つの創業の精神「創造」「挑戦」「誠実」「調和」の浸透をテーマとして活動しています。パソコンを立ち上げたときに現れる、創業の精神をモチーフとした壁紙デザインは、新しく入った社員からも「デサントは面白い会社だ」と好評を得ています。また、20年ぶりに開催した社内運動会では、創業の精神の4つの言葉をチーム名として名付けるなど意識が高まりました。さらに2018年は、浸透から活動のレベルに移していきます。そのひとつとして、2018年度の社員の階層別研修には企業理念と創業の精神の研修項目を織り込みます。ほかにも社員同士の他薦による企業理念と創業の精神を実践している人の表彰や、人事考課への反映を考えています。

会社名とブランド名をミックスする

会社名である『デサント』ブランドがグローバルで評価されてきており、社名のブランドによる求心力が働いてきています。会社名のデサントとブランド名の『デサント』をうまくミックスさせて、さらに推進力を高めていきたいと考えています。分社後、グローバル本社の役割を整理することで、自分たち(各社)がやるべきこととグローバル本社がやるべきことへの整理ができてきました。グローバル本社が求心力を高め、「モノを創る力」とグローバルでブランドを強くしていく力、グループ各社の期待に応えられる力を今後も高めていく必要があります。そうすることでグループ全員が、デサントグループの一員であることに誇りに持てるようになると思います。

仕事は、お客様の笑顔のためにある

日本のモノ創りが国内外で評価されている一方で、世間ではガバナンスやコンプライアンス面での不祥事が発生するなど、その本質が揺らぎつつあります。社員一人ひとりが企業理念を理解し、自分たちの会社は何のために存在しているのか、社会にどのようにして貢献していくのか、自分の仕事をなぜ、誰のためにしているのか、などへの答えをグループ全社員が共有することが企業としての責任でもあります。デサントグループでは、商品の生産からお客様に届けるまで鎖をつなげたように仕事をしています。その中での自分の役割、前後左右の人の役割、そして全体の流れを理解し、ひとつの鎖を完成させるのに全社員が同じ思いを持つことが大事です。お客様の笑顔のために仕事をしているということを忘れずには、会社の利益のために嘘をつくこともないでしょう。会社にとって、利益は大事なことです。利益は会社の活力であって生きがいではありません。会社自身の生きがいは、企業理念を成し遂げることです。デサントグループは、企業理念「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」を全員で共有し、今後も誠実な企業活動を続けていきます。

デサントは、スポーツを愛する世界中のお客様をサポートするため、常に安全で高機能・高品質なスポーツウエアづくりに努めています。

競争力の源泉：「モノを創る力」と「売り場を創る力」

デサントの競争力の源泉はスポーツウエアの開発力です。お客様のご要望を聞き、それにお応えするために技術と発想力で、常に新しい商品を開発します。商品をお届けする売り場は、単なる販売の場ではなく、お客様との重要な接点であり、デサントからの情報の発信地でもあります。デサントは新鮮で、驚きがあり、楽しく買い物ができる、そんな売り場を創ります。「モノを創る力」と「売り場を創る力」を高めて、お客様に満足いただける商品をお届けしていきます。

モノを創る力

デサントの強みは、高機能・高品質でデザイン性に優れたスポーツウエアの企画開発力です。「モノを創る力」の向上のため、奈良県にある吉野工場を建て替えて生産・開発力を拡充したほか、社内外の各種アワードについても、実施・参加を継続させています。

デサント Apparel 株式会社の吉野工場を移転し、生産・設計開発能力を拡充

デサントジャパン

2017年4月、奈良県吉野郡にある吉野工場を移転・立て替え、稼働を始めました。同工場は、水着やランニングウエアなどを中心に、納期・生産ロットにおいて柔軟な生産に対応できるのが特徴です。新設工場は建屋面積の拡大とともにミシン台数やオペレーターも増強し、多品種・小ロット商品の生産能力を強化しました。さらに、同工場のもう一つの特徴である、サンプル品の型紙製作から縫製までを行う「アトリエ機能」を活用し、ポプスレー・リュージュ競技ウエア、ランニングウエアなどのトップアスリート向け高機能競技ウエアについて、より効率的な開発を実現しています。



▲吉野工場の外観



▲縫製場には柱がなく、柔軟なミシン配置が可能

「デサント・デザインアワード」を継続して実施

デサント

今期も、開発力とデザイン力の向上を目的に、社内コンテスト「デサント・デザインアワード」を実施しました。2017年5月の第5回は2017年の秋冬商品を、同年12月の第6回は2018年の春夏商品が対象です。選考方法は、当社がスポーツ専門誌の編集者やスタイリスト向けに開く「デサント プレス会」に出展した、各ブランドのアイテムから自薦します。次いでアワード当日、ご来場の方々に、スポーツアイテムとしての機能性・新規性・トレンド性などの観点から最もデザインが優れたアイテムに投票していただき、最優秀賞および優秀賞を決定しました。



▲第5回アワードにて
左より、梶村武弘、伊藤良太、代表取締役社長の石本雅敏

第5回受賞作品 (2017年5月開催)

最優秀賞



デザイナー：伊藤 良太
(いとう りょうた)
ブランド：ルコックスポルティブ
商品名：ノーカラージャケット & 9分丈パンツ

優秀賞



デザイナー：梶村 武弘
(かじむら たけひろ)
ブランド：マンシングウエア
商品名：スウィングトップ

第6回受賞作品 (2017年12月開催)

最優秀賞



デザイナー：梶村 武弘 (かじむら たけひろ)
ブランド：マンシングウエア
商品名：SODEKAHO (ソデカホ)
アートプリントシャツ



▲第6回アワードにて
左より、代表取締役社長の石本雅敏と梶村武弘

ISPOアワードGold Winnerを2年連続で受賞

デサント

2018年1月、ドイツで開催された「ISPOミュンヘン2018」において、『デサント』ブランドのアスレチックカテゴリー商品「フュージョンニット パラヘムジャケット クリック」がISPOアワードGold Winnerを受賞しました。同賞は、2017年に続き2年連続の受賞です。

2018年で7回目を数えるISPOアワードでは、2013年より連続して『デサント』ブランド6商品でGold Winnerを、8商品でWinnerを受賞しています。今回はアスレチックと「オルテライン」カテゴリーから各1商品、スキーカテゴリーからも2商品と、『デサント』としては過去最多の4商品がアワードに選出されました。スキーカテゴリーの受賞は4年ぶりであり、ウェアに加えてグローブでも受賞するなど、対象となるアイテムも広がりを見せています。

▶ ISPOアワードとは

各国から約2,700社が出展する、世界最大規模のスポーツ用品の国際総合見本市「ISPO」において、コンセプト・デザイン・技術・環境への配慮などの項目について、厳正な審査により選ばれた、優れた商品に贈られる賞。



デサント
「フュージョンニット
パラヘムジャケット クリック」
(ヘルス&フィットネス部門
ライフスタイルカテゴリー)

デサント
「水沢ダウンジャケット
マウンテニア」
(アウトドア部門
ダウンレジャーカテゴリー)

デサント
「S.I.O × スキーマテック インナー
サーフェイスシェルジャケット」
(スノースポーツ部門アウター
レジャー ハイブリッドカテゴリー)

デサント
「S.I.O グローブ」
(スノースポーツ部門
グローブカテゴリー)

売り場を創る力

「売り場を創る力」の要となるのは、接客力の向上です。2005年から新卒採用を始めた販売スタッフの成長、さらに販売スタッフ向け工場見学なども効果を上げており、それらと並行して、現場での接客スキルアップを目指す各種の施策にも、継続して取り組んでいます。

第9回「全国SCロールプレイング大会」

デサントジャパン

デサントジャパン株式会社に所属する、店頭での販売職スタッフ（セールスコーディネーター/SC）は、全国で約1,000名を数えます。2009年に始まった本大会の今回のテーマは、「顧客に繋がる接客 ～お客様を知り、私を覚えてもらう接客～」。直営店・百貨店・専門店などで働く42名による予選を勝ち抜いた13名が、2017年11月15日に東京で開かれた決勝大会に進み、優勝1名、準優勝2名、新人賞1名が選ばれました。



▲優勝した佐藤 明百(さとう あきも)さん(左)

第30回「全国優秀店舗」表彰式

デサントジャパン

今回で30回を数えるこの表彰式は、デサントジャパン株式会社に所属する約1,000名のセールスコーディネーターの能力向上とモチベーションのアップが目的です。優秀店舗として全国の約350売場から9つの売場と新人賞1名、それに30回という節目を迎えて特別賞も設け、セールスコーディネーター1名と1売場を表彰しました。



▲2017年5月25日の表彰式

特集

第1回 品質事故情報展を開催 ～事故から何を学ぶのか～



株式会社デサント
R&Dセンター 部長
佐野 茂樹

株式会社デサントおよびデサントジャパン株式会社は、2017年10月24・25日に東京オフィス、翌11月1・2日に大阪オフィスで「第1回 品質事故情報展」を開催しました。これは、当社の商品で発生した過去の事故事例を、実際の商品や解説パネルを使用して展示し教訓にすることで、再発防止やさらなる品質向上に一丸となって取り組むのが目的です。

初の開催となった今回は、当社の「ものづくり」に携わる関係者として、取引先である商社・素材メーカーの方々に加え、社内のMD・デザイナーや仕入担当者を対象としました。開催に携わった株式会社デサント R&Dセンター 部長の佐野茂樹が、インタビューに答えます。

開催に至った経緯は？

「2016年までは、担当者だけを対象とした小規模な説明会を実施していましたが、社内でも同様な品質事故が発生しており、他のブランドの担当部署とも情報を共有できるよう、今回の開催を考えました。同時に、仕入先の皆様との情報共有も実施しました。」

開催にあたっての留意点は？

「担当者が幅広く関心を持てるように、あらゆるジャンルの事故事例を紹介するよう、心がけました。品質事故をなくすには、その原因と責任の所在を明確にすることが大切です。できるだけ最近の事例から選出し、原因と責任の所在を明確にして展示するようにしました。社員と仕入先の皆様に、品質管理の重要性を再認識してもらえるように開催しました。」

開催後の社内外からの評価は？

「担当者からの一方的な事故事例の説明にとどまらず、社員および仕入先の皆様との情報交換を行いつつ、会場を回りました。関係先との情報交換ができる説明会形式は良い評価を得ていたため、今後も継続して開催したいと考えます。社内での出席者からは、一つひとつの事例を、もう少し掘り下げて説明してほしいとの要望があり、今後、別の形式での開催も検討していきます。」

品質管理に関する考え方は？

「通常、企業のR&Dセンターは新製品の開発が主な目的ですが、当社では、R&Dセンターにあえて品質管理の役割も付加しています。これは、高機能商材の開発には品質管理が不可欠だからです。当社では、引き続き品質管理を徹底しながら機能性の開発を進め、お客様満足の一層の向上に努めていきます。」



▲会場内の説明会



▲品質事故の展示例

学生たちと「痛みを感じず、怪我をしないシューズ」を創る

専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジと産学協同プロジェクトを実施

『デサント』ブランドのランニングシューズを開発

デサントジャパン株式会社と専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ（東京都渋谷区）は、シューズの企画からプレゼンテーションまでを行う産学協同プロジェクトを実施しました。

プロジェクトは『デサント』ブランドでの「長時間走っても、体に痛みを感じない・怪我をしないシューズ」開発をテーマとし、シューメーカーマスターコースの学生10名が5つのチームに分かれて参加。2017年9月からスタートし、リサーチを重ねながら、デサントジャパンのシューズ企画担当者も加わって実践的な授業を行いました。最終日の11月13日には、各チームが開発コンセプトや特徴などを社員に説明する発表会を実施。制作したシューズを前に、社員がコンセプトの面白さやターゲットの正確さなど6項目について審査を行い、合計得点が最も高いチームを表彰しました。

デサントジャパンでは、このような活動を通して学生に「ものづくりの楽しさや難しさ」を実感してもらう機会を提供し、「ものづくり」を学ぶ学生の柔軟な発想や新鮮な切り口を、商品企画に活かしていきます。

専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ

1966年、ジュエリー分野に特化した学校法人として、日本で初めて認可されました。2004年に開設した「シューメーカーコース」では、あらゆる分野の靴のデザイン・製作を学べ、世界で活躍できるシューメーカーを育成。



▲モックアップ制作を重ねて検証していく



▲優勝チームが開発したランニングシューズ



▲優勝チームとデサントジャパン株式会社代表取締役社長の三井久（右）

優勝チームの企画内容

- 開発テーマ：
「ランナーズハイ」膝への負担を軽減するランニングシューズ
- 開発ポイント：
ランナーの悩みである膝の故障に着目し、ミッドフット（足裏）着地から蹴り出しまでの時間短縮を図るため、ソールの踵部分を薄く、つま先部分に溝を設けて膝の負担軽減を目指した。

デサントジャパン株式会社 プロジェクト担当者インタビュー

本プロジェクトを始めたきっかけは？

これまで同カレッジでは、さまざまなグローバルトップブランドと共に、今回と同様の産学協同プロジェクトを実施しています。これから当社でフットウェアビジネスを一層、大きく展開していくにあたり、同カレッジとの連携で、優秀な人材の確保や新ビジネス提携の推進を図るのが、プロジェクトの目的です。

開発テーマはどのように決めたか？

社内では「アスリート向け」「各競技特性に特化したシューズ」「高齢者用シューズ」などの案が出ましたが、ある程度、万人に当てはまる広いテーマを選びました。

審査上のポイントは何か？

テーマに忠実に取り組んでいるかどうか、そしてターゲットの正確さと作品の完成度もポイントとなりました。ただ、もう少し学生ならではの新たな切り口や発想も欲しかったと思います。

プロジェクトに対するカレッジ側の評価は？

通常はカレッジ内で関係者だけに向けて行うプレゼンテーションを、今回は50名以上の社員が見守る中、当社内で実施しました。慣れない場所、しかも大人数に向かい合っただけという、これまでとは違う発表の機会を設けたことが感謝されました。

社内での評価と今後の展望は？

まだまだ展開の少ない「フットウェア」カテゴリーにおいて、社員向け最終報告会を実施し、社員の興味・関心を引きました。斬新かつ綿密なリサーチによる商品開発は大いに刺激になったと思います。今後も、同カレッジとの新たなプロジェクト推進を継続していきたいです。

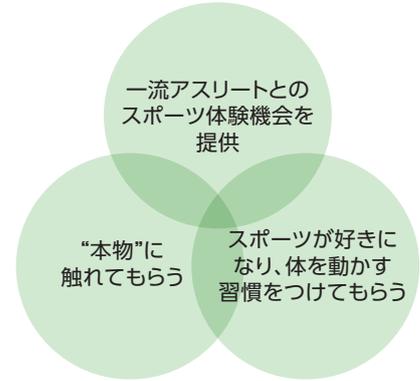


▲デサントジャパン社員に向けてプレゼンテーション



「すこやかキッズ スポーツ塾」 2017年度の活動

スポーツをする機会が減り、体力・運動能力が低下傾向にある現代の児童に「スポーツが好きになり、体を動かす習慣をつけてもらう」ことを目指す児童向けスポーツ体験型プログラムです。トップアスリートによる指導や時代に即した新しいプログラムの提供など、すでに10年以上にわたって、全国的にレベルの高い活動を展開しています。



「すこやかキッズスポーツ塾」のコンセプト

2017年度の実施概要

合宿型スポーツ体験キャンプ 「2017 みなかみ SUMMER CAMP」

さまざまなスポーツ体験に加えて、合宿型の特徴を活かしたクラフト活動や飯ごう炊飯などで、創意工夫やチームワークの重要性を体得する機会を提供します。2017年6月に「ユネスコ エコパーク」に登録された群馬県みなかみ町の大自然の中、新たにレイクカヌーやスラックラインなどにもチャレンジしました。

すこやかキッズ スポーツ塾 「2017みなかみSUMMER CAMP」の概略	タイムスケジュール
主催者：すこやかキッズ スポーツ塾 実行委員会 協力：デサントジャパン株式会社 後援：スポーツ庁、群馬県みなかみ町 開催日時：2017年8月22～24日 開催地：群馬県利根郡みなかみ町 藤原地区、月夜野地区 参加人数：21名（男子7名・女子14名）	1日目 <ul style="list-style-type: none"> ●チームビルディングワークショップ ●星空鑑賞会（雨天のため室内にて星空講座、夜景写真鑑賞）
	2日目 <ul style="list-style-type: none"> ●レイクカヌーおよびスラックライン体験 ●夕食時の飯ごう炊飯（カレー作り・マス串焼き）
	3日目 <ul style="list-style-type: none"> ●クラフト体験（グラス絵付け） ●季節のフルーツ狩り（ぶどう） ●昼食（BBQ）

1日目：8月22日（火）

現地ホテルに到着して昼食後、みなかみ町役場より、「ユネスコ エコパーク」についてレクチャーしていただきました。次いで、ホテル敷地内の芝生広場（藤原スキー場）でチームビルディングと同時に「縄跳びダッシュ」「鬼ごっこ」などのレクリエーション中、雨になり、ホテルへ移動



▲ホテル内で、じっくり星座を学ぶ



▲レクリエーションで新しい仲間たちと打ち解けていく

して継続。入浴・夕食のあと、屋外で予定していた星空鑑賞会は、雨天のためホテル内でプロジェクターでのスライド表示による星空解説に切り替え、みなかみの四季の写真も同時に紹介しました。



▲雨も止み、岡田塾長が白樺林でスラックラインを実演



▲2人で息を合わせてカヌーを漕ぐ



▲グラスに絵付けする方法を真剣に聞く

2日目:8月23日(水)

午前中、ならまた湖の湖畔で、ガイドさんからパドルの扱い方を習って2人1組でカヌーへ乗り込む。漕ぎ方に慣れると、湖上を行ったり来たり。午後は再び雨に見舞われ、町立体育館に移動してスラックライン体験です。塾長の岡田亜佑美さん(GIBBON所属プロスラックラインライダー)の指導を受け、ライン上を数メートル渡る子どもも。しっかり体を動かしたあとは夕食の準備。まず、スキー場内の小川で食材のマスをつかみ採り。次に米を磨いで飯ごうで炊き、野菜を刻み、カレー鍋の火を起こしてカレー作り。マスは串焼きいただきました。

3日目:8月24日(木)

最終日の朝、ホテルに別れを告げ、ガラスのテーマパーク「月夜野びーどろパーク」でクラフト体験として約1時間、筆と絵の具でグラスに絵付け。各自が思い浮かべたイメージを自由に描いていきます。次に「ドールランドみなかみ」に移動し、季節のフルーツ狩りとして、ぶどう(品種はデラウェア)狩りを楽しむ。合宿の参加者が全員そろった最後の昼食は、班ごとに分けられた席でのBBQランチ。食後に、隣接する噴水広場で閉会式を行い、合宿の全行程を完了しました。



▲ぶどう狩りでは、各自3房をお土産として頂戴する

総評 なかなか体験できないカヌーやスラックラインを企画し、とても充実したキャンプでした。各種スポーツでは、コツをつかんだ子どもがほかの子に教えて皆で楽しむ工夫をするなど、成長する姿を見られました。さらに、豊かな自然にふれ、自分の生活に直結する水や環境を守る重要性も学べたようです。合宿後、保護者から「子どもが、家族以外の人と過ごす楽しさを知った」とのコメントもいただきました。今後も、ご要望の多い乗馬を含め、新たなスポーツ体験の機会を創り出す考えです。

学校訪問

地元の自治体・教育委員会の協力を得て、全国の小学校で実施する訪問授業です。オリンピック日本代表の田中光氏などトップアスリートが講師を務め、時代に即した新しいプログラムの提供により、児童たちにレベルの高い指導を行っています。

2017年度の実施状況

実施地域	学校数	実施月	プログラム
東京都江戸川区	4	2017年12月	リズム体操
大阪府大阪市	2	2017年12月	リズム体操
奈良県吉野郡大淀町	2	2017年12月	姿育体操
福島県双葉郡川内村	1	2018年1月	リズム体操



総評

リズム体操では、塾長が伝えたいメッセージ「夢を持つ・あきらめない・けじめをつける」を、児童たちが体を動かして感じてくれたと思います。姿育体操では、講師陣による意識付けの寸劇や、ダンス要素と関節を意識した動きが、多くの児童の理解を促進しました。長年、実績を重ねる学校訪問は地域に感動を与える事業であり、ご要望があれば積極的に訪問していきます。



塾長紹介

リズム体操塾長: 田中 光 氏
たなか ひかる
 1996年、アトランタオリンピックに出場。世界体操 銀・銅メダリスト。流通経済大学 スポーツ健康科学部教授。博士(学校教育学)。



姿育体操塾長: TEAM NEXT
いとう かな子
伊藤 かな子 氏
 ろっ骨エクササイズのカキラ(KaQila)指導に並行して、「姿育体操」の資格も取得し、幅広い層を対象に活動。

やまざき あきこ
山崎 明子 氏
 元OL。持ち前の明るさとスター性、ポジティブな行動力で多くのファンを持つ。姿育体操で子どもたちの明日づくりに奔走。

おおつ あきよ
大津 章代 氏
 2009年よりキッズダンススタジオで子どもたちの指導に関わり、現在では年齢を問わず健康指導の幅を広げている。

すぎたに まきこ
杉谷 まきこ 氏
 1992年より、「うたのおねえさん」として活動を始め、幼稚園・保育園への訪問公演、ホール公演など年間で約150ステージに出演。

グローバル化に対応した人材育成、女性のさらなる活躍を推進する「才職健美推進委員会」など、人材育成およびダイバーシティを中心に、新たな施策に取り組んでいます。

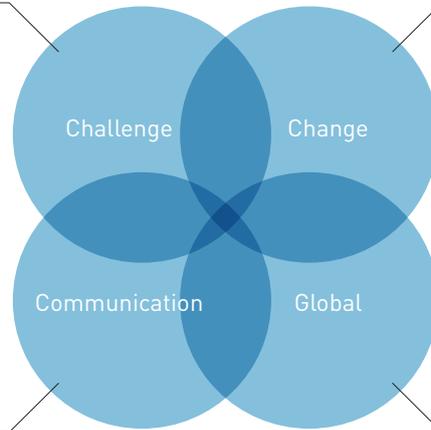
デサントが求める人材像

チャレンジできる人

お客様起点を忘れずに、自ら高い目標を設定し、責任感を持ってやりきり、企業価値向上に貢献できる人。

チェンジできる人

時代や環境の変化に敏感で、常に改革・改善意識を持ち、失敗を恐れず、スピード感を持って仕組みを創造もしくは変えて組織を強くできる人。



コミュニケーションが図れる人

相手の考えや気持ちを理解し、尊重しながら自分の意思を分かりやすく伝えることができ、本質的な対話ができる人。

グローバルに活躍できる人

グローバルな視点を大切にし、言語・異文化等への関心・学習意欲を持ち、好奇心・行動力・向上心があり、国内外問わずどこでも能力発揮できる人。

デサントの人材育成

階層別研修

新入社員研修や2年目フォロー研修、中堅社員向けのキャリアデザイン研修、役職者向けの研修など、社員の階層に応じて必要な知識の習得を目指した研修を実施しています。

職能別研修

品質管理強化研修やマーケティング研修など、それぞれの職務に応じて必要な能力を強化します。また、その他全社横断型の研修も実施しています。

課題別研修

品質管理、IT技術などの水準向上を目指し、研修を行います。

海外派遣研修

語学力やビジネススキルの向上、資格取得など、社員がより質の高い専門知識や幅広い視野を身につけるための自己啓発活動に対して、デサントでのさらなる活躍を支援するためバックアップを行っています。

「繊維製品品質管理士」

資格取得のためのプロジェクトを実施

MD・デザイナー・調達担当の繊維製品知識のレベルアップを図ることを目的として、2007年から繊維製品品質管理士(Textiles Evaluation Specialist : TES)の資格取得のためのプロジェクトを実施しています。

繊維製品品質管理士は、1981年度に当時の通産省告示に基づいて生まれたもので、顧客満足(CS)の実現を目指して消費者に提供する繊維製品の品質・品位・性能の向上を図ると共に、品質について消費者からクレームが出ないように、製品製造や販売を行う企業の中で活躍するスペシャリストを指します。

新規受験メンバーは以下の表にある講習を受講し、上司のフォローのもと2年以内に合格するように自己学習に励みます。

このプロジェクトを継続することにより、現在当社には127名の有資格者が活躍しており、これはアパレル業界の中でもトップクラスの在籍者数です。

① 社内講師による講習	営業日(勤務時間内)に 2時間×10～15回程度
② 社外講師による講習	休日に延べ6日程度
③ 自主学習	テキストを配布し、 自己学習を進める

「デサントグループ運動会」を開催



デサントグループとして約20年ぶりとなる運動会を、東京で開催いたしました。東京勤務の社員を中心に、全事業所から総勢約220名のグループ社員とその家族が参加し、当グループが「創業の精神」として掲げている創造・挑戦・誠実・調和の4チームに分かれて順位を競いました。

参加した社員からは、「社会人になり、久しぶりに全力で運動をして気持ちがよかった。」「初対面の社員同士でも、チームメイトとして共に勝利を目指してスポーツをしたことで自然に距離が縮まった。」といった感想もあり、社員同士のコミュニケーションの機会となった様子でした。

「健康経営優良法人～ホワイト500」に2年連続認定



社員の健康管理を経営的な視点で捉えた「健康経営」の取り組みが認められ、「健康経営優良法人2018(ホワイト500)」に認定されました。

1. 健康管理室を設置し保健師5名、衛生管理者1名が常駐し、嘱託産業医4名とともに全従業員の健康管理をすすめています。
2. 全国各地の販売員、海外駐在員とその帯同家族も保健師が定期的に巡回しています。
3. 健康診断は労働時間や期間に関係なく実施し100%を順守しています。

ダイバーシティ

競争力のある企業になるためには、全社員のレベルアップが必要不可欠です。性別、年齢を問わず、意欲を持って活躍できる人事制度、職場環境の構築、整備を推進していきます。

ダイバーシティに関する研修など諸施策を以下にご紹介します。

● 「才職健美」推進委員会

「女性基幹職を2020年までに20名以上にする」の宣言のもと、女性の活躍を推進する委員会です。

2017年度の目的は、「働く地域を限定しているエリア入社女性総合職の活躍を推進するための各種施策の立案・推進・社内広報」です。

● メンター・メンティ制度

基幹職昇格者が、管理職を担う準備を目的とした制度です。定期的な面談を通して、課長職を担うために必要な知識や心構えなどをメンターからアドバイスを受けます。

● リーダーシップ・ディベロップ研修

エリア入社女性社員がさらに高いレベルを目指すために、期待される立場や求められる能力を認識し、仕事を通じて自律的な能力開発・キャリア開発につなげていきます。

内容は演習・講師による資質評価・行動計画の策定などが主となります。

● 「1UP研修」

働く地域を限定しているエリア入社女性総合職を対象とし、講義や物流センターの見学を交えながら、物流の仕組み・物流センターの位置づけやその業務内容・関連部署との関わりなどを学びました。

● シニアスタッフスタート研修

再雇用がスタートするタイミングに会社の現状を知り、定年退職・再雇用制度・60歳以降の社会保険の知識などを研修を通して深めていきます。

デサント코리아株式会社の環境保護活動

「SAVE THE PENGUIN」キャンペーン

最初はペンギンがシンボルマークの『マンシングウェア』のブランドキャンペーンとしてスタート。2013年にはデサント코리아全体におけるキャンペーンへと拡大し、同年、国連環境計画機構（UNEP）傘下の環境専門機関であるUNEP韓国委員会（UNEP National Committee of Korea）と協定を結び、「UNEP / GRID-Christchurch」チームが取り組む、南極での生態系調査を支援しました。

ペンギンは、地球温暖化により大きな被害を受けた生物の一種です。デサント코리아はペンギンの保護を通して人々に環境破壊の深刻さを伝え、環境保護の必要性を訴えてきました。キャンペーンではとりわけ、環境保護は他人事ではなく、私たちの日常生活の身近にあるスポーツにおいても重要だというメッセージの発信に努めました。

2017年のキャンペーンは、3月31日から6月11日まで、ディズニー・ピクサーの映画「トイ・ストーリー」とのタイアップにより展開しました。5タイプのキャンペーンTシャツをつくって期間中に限定販売し、その収益は、南極でのペンギンの生態系調査と、スポーツにふさわしいと思われる環境保護活動に寄付しました。

また、デサント코리아では、FacebookをはじめとするSNS、屋外広告、オンラインでのパンフレット配布、NAVER Happybean（ネイバー・ハッピービーン）※などを用い、キャンペーンの認知度を高める活動も展開しました。

「SAVE THE PENGUIN」は、スポーツ用品メーカーとしての社会的責任のひとつである環境保護に貢献するため、デサント코리아が2009年から展開するキャンペーンです。



▲「UNEP / GRID-Christchurch」のメンバー

※NAVER Happybeanとは？

韓国最大のポータルサイトNAVERが実施する寄付制度。同サイト上でのQ&Aコンテンツへの質問・回答やNAVERメールによる送信などに対し、幸せの豆（ハッピービーン）が与えられる。豆1個につき100ウォンに換金され、ユーザーが指定する、様々な社会貢献を行う団体に寄付できる。

🖥️ NAVER Happybeanのブログ：<http://happybean.naver.com>

デサント코리아「SAVE THE PENGUIN」キャンペーン担当者インタビュー

キャンペーンに参加した理由は？

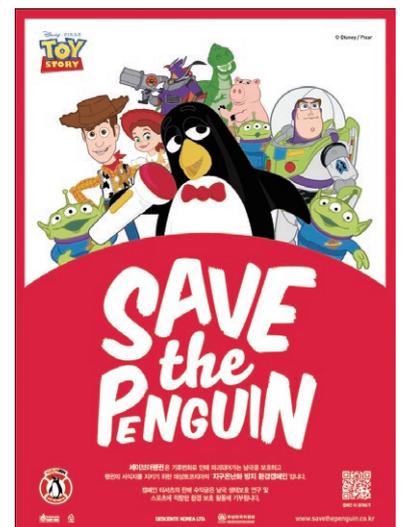
デサント코리아の使命のひとつ「スポーツのための環境保護」を果たすと同時に、キャンペーンを通して、多くの人々の関心を環境保護に向けるためです。

これらの活動について、どのように考えていますか？

本キャンペーンのような活動は、デサント코리아のコア・バリューを広める役割を十分に果たしていると思います。企業は雇用創出も含めて、社会貢献を果たさなければなりません。これらの活動は、私たちの事業にとって多くの点で良い影響を与えてくれるでしょう。

今後、どのような活動を展開していくのですか？

私たちは、人々に環境保護の必要性をわかってもらい、その活動を体験してほしいと考えています。2018年には韓国極地研究所（KOPRI）と共に、南極とそこに生息するペンギンたちの現状を広く人々に訴えるため、環境保護への意識向上を目的とした展示会を開催します。さらに「NAVER Happybean」も活用し、キャンペーン参加者を増やしていきます。



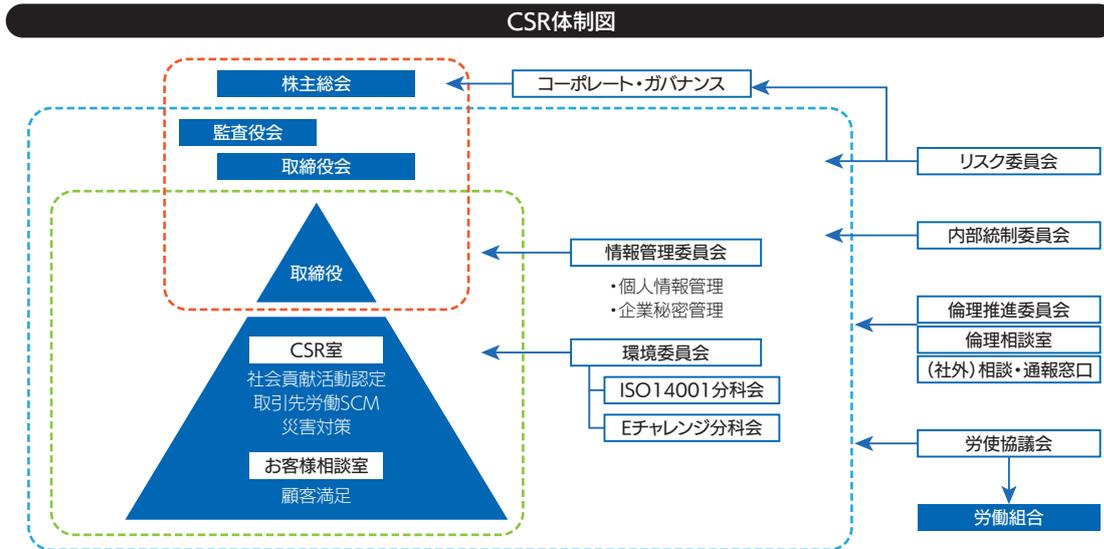
▲2017年のキャンペーンポスター

ステークホルダーの皆様の信頼にお応えするために、「コーポレート・ガバナンス」「内部統制」の体制を構築し、企業の持続性の維持と企業価値の向上を目指すための取り組みを、相互に関連を持たせながら進めています。

コーポレート・ガバナンス

「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」—この企業理念に則り、法と企業倫理に従い、誠実で公正かつ透明に事業活動を展開することが、企業の社会的責任であると認識し、コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みを通じて企業価値を継続的に高めることを、経営上の最も重要な課題のひとつとして位置付けています。

その実現のために「デサントグループ倫理綱領」「デサント倫理行動基準」を定め、株主の皆様やお客様をはじめ、お取引先、地域社会、従業員など様々なステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機関に加えて、様々な手段を講じてコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。



コンプライアンス

企業活動において根本となる姿勢を「デサントグループ倫理綱領」に定める一方で、社員一人ひとりが、働く上で指針とすべき基準を「デサント倫理行動基準」として定めています。これらの順守を推進するために倫理推進委員会を設置し、健全で品格に富む企業風土の醸成に努めています。また、職制を通じた解決が難しい問題、あるいはほかの社員の倫理に反する行動などの相談に対処するため、社内に「デサント倫理相談室」、社外には法律事務所を相談窓口として設けています。

2017年度 倫理推進委員会活動

- 開催 : 6月、8月、2018年1月
- 主な内容 : 各部署の倫理的問題に対するルールづくりと全社研修の立案
- 分科会 : 3つのグループに分かれてそれぞれのテーマについて検討。開催は随時。
- 研修説明会 : 9月に4日間
- 10月~11月 : 全社コンプライアンス研修を実施
- 10月 : 販売員コンプライアンス研修

リスク管理

当社に重大な影響を与える事態の発生防止と万一の発生時の損害・影響の最小化、ならびに事業の継続性および業務の適正性の確保を目的に、「リスク管理規程」「リスク管理運用規則」を定めています。これらに則り、リスク委員会ではリスク全般を可視化し、予防と発生時の対策の整備を行い、対策

の実施状況に対する担当取締役の監視とレビューの後、取締役会に報告します。

2017年度におけるデサント単体の重大リスク対象は42項目あり、このうち監査対象リスクの発生はありませんでした。

情報管理

「企業秘密管理規程」「企業秘密管理基準」制定するとともに、内容をわかりやすくした「企業秘密ガイドブック」を全管理職に説明のうえ、管理・徹底を促進しました。また、デサントが保有する個人情報及び特定個人情報の適正な保護を実現することを目的として「個人情報保護規程」「個人情報保護規則」に方針を定めています。毎年、一斉に「全社の個人情報

棚卸し」を実施することで、個人情報の属性・件数・管理者・保管状態などを把握します。

2017年度における機密情報の漏洩はありませんでしたが、お客様情報の紛失が1件発生しました。不正に利用された等の連絡は入っていませんが、お客様への誠意を持った対応と今後の再発防止に努めてまいります。

デサントは、サプライヤーの皆様と公正なパートナーシップを築き、人権や労働条件の改善、環境保全に協力し、共に発展していきたいと考えます。そのために、すべての仕入先と「デサント・サプライヤーCoC（取引行動規範）」の誓約を交わし、また工場のCSR監査も実施しています。

2017年度 第三者機関によるCSR監査結果

2017年度は11工場に対しCSR監査を実施しました。指摘された項目に関して仕入先および工場と連携して、是正計画を練って改善に取り組みました。また国内3工場に対し自社監査を実施しました。

▶監査項目

1. 児童および未成年労働、2. 強制労働、3. 安全衛生、4. 結社の自由、5. 差別、6. 懲戒慣行、7. 労働時間、8. 賃金、9. 環境、10. コンプライアンス

▶国別実施工場

中国4 / ミャンマー2 / ベトナム4 / インドネシア1 / 日本3

▶アイテム別の不適合比率

生産アイテム	2017年度監査 実施工場数	不適合が全項目の 10%未満	不適合が全項目の 10%~19%	不適合が全項目の 20%以上
ウェア	12	7	3	2
シューズ	1	0	0	1
アクセサリ	1	1	0	0
計	14	8	3	3

2011 ~ 2017年度累計

▶国別実施工場

中国68 / ベトナム21 / ミャンマー11 / インドネシア8 / タイ2 /
バングラデシュ1 / 日本4 合計115

▶アイテム別の不適合比率

生産 アイテム	年度別 工場数								不適合が 全項目の 10%未満	不適合が 全項目の 10~19%	不適合が 全項目の 20%以上
	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度				
ウェア	11	19	11	14	10	11	12	48	28	14	
シューズ	1	2	4	1	1	1	1	3	3	5	
アクセサリ	0	5	4	1	2	1	1	9	4	1	
計	12	26	19	16	13	13	14	60	35	20	

デサント・サプライヤーCoC (取引行動規範)

当社の取引行動規範について、世界スポーツ用品工業連盟(WFSGI)の行動規範に基づき次の内容で決めました。

1. 法律の遵守
2. 労働条件
 - ① 強制労働
 - ② 差別
 - ③ 組織及び団体交渉の自由
 - ④ 賃金
 - ⑤ 労働時間
 - ⑥ 権利と休暇
 - ⑦ 児童労働
 - ⑧ 健康と安全
 - ⑨ 嫌がらせあるいは虐待
3. 環境
4. 地域社会との係わり合い
5. 企業内の独自の規範
6. 証明
7. 遵守



▲安全保護装置と保護眼鏡



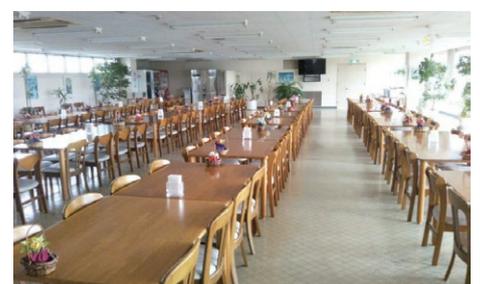
▲消火栓と消火器



▲十分な広さが確保された避難通路



▲火災報知機と避難経路図



▲衛生的で安全な縫製工場の社員食堂

デサントは、環境経営の指針として「デサント環境基本理念」「デサント環境方針」を定めるとともに、取締役を中心に構成される「環境委員会」を設置しています。環境委員会のもとに環境保全活動を推進するためにISO14001分科会とEチャレンジ分科会を置き、環境負荷・環境リスクを低減するとともに、それらの発生を予防するための行動を積極的・継続的に行っています。

環境基本理念と環境方針

▶「デサント環境基本理念」

デサントは、地球環境保全が最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で積極的・継続的に環境保全に配慮して行動する。

▶「デサント環境方針」

デサント環境基本理念に基づき、環境保全活動を推進し、環境負荷・環境リスクを低減し、その発生を予防するための行動を積極的・継続的に行う為に、下記の事項を定める。

1. 環境保全活動を推進させるため、「環境委員会」を設置する。
2. 環境関連の法律・規制・協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に、全ての領域で取り組む。
4. 事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定して全員で取り組み、その結果を見直して継続的改善・向上を図る。
5. 環境負荷低減型の商品開発、商品づくりを行う。
6. 環境監査を実施し、環境管理の維持向上に努める。
7. 環境教育を実施し、全従業員の環境方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
8. 環境基本理念、環境方針及び環境保全の実施状況については、必要に応じて公開する。

CO₂排出量の削減目標

2017年度のCO₂排出量目標は760t-CO₂。これは2016年度から26t-CO₂の削減目標でしたが、実績は726t-CO₂となり達成できました。2008年度から2017年度までで366t-CO₂の削減となりました。2017年度は東京オフィスの空調設備を改修し、電力量の削減を主に、CO₂の削減が図れました。削減に向けた日常の取り組みを維持するとともに各設備の効率を高める投資を進めていきます。

環境保全取り組み事例

▶西都工場の太陽光発電システムが順調に稼働

デサントアパレル株式会社 西都工場に設置した太陽光発電システムがこの一年間に発電した電気量は、およそ60,266kWh(2016年度比99%)。これは、西都工場一年間に消費する総電力の13.4%に当たります。

▶廃棄繊維をリサイクルし軽量土壌として再生化

デサントアパレルの各工場から出る裁断端切れや廃番生地を回収し、植物栽培用の軽量土壌に再生する取り組みに参加しています。2017年度は、総量で約9トンを再生土壌化しました。



▲西都工場の敷地内に設置された太陽光パネル



▲当社工場の裁断端切れを再生した軽量土壌のプランター

2017年度 国内事業所別CO₂排出量

単位:t-CO₂

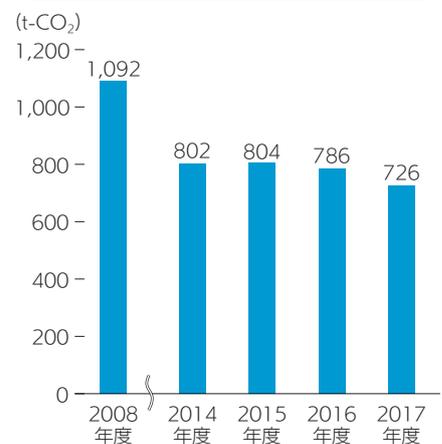
事業所名	実績
大阪オフィス	317.9
東京オフィス	379.3
札幌営業所	5.0
仙台営業所	5.6
名古屋営業所	11.3
広島営業所	2.0
福岡営業所	4.7
全社計	725.8

要素別排出量

単位:t-CO₂

要素	実績
電気	508.0
ガス	197.7
水道	4.7
ゴミ	15.4
計	725.8

CO₂排出量の推移



DESCENTE



コーポレートシンボルマークの由来

DESCENTEとは、フランス語で「滑降」の意味。
スピリットマークは、スキーの基本技術である直滑降、斜滑降、横滑りを表現しています。
つねに最もすぐれたものに目を向け、時代の要求を先取りし、
積極的に製品化していく果敢なデサントスピリットのシンボルです。



コミュニケーション・オン・
プログレス

国連グローバル・コンパクトの原則の実践
状況および国連の様々な目標の支持につい
て、この**コミュニケーション・オン・プログレス**
を通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。

本レポートに関するお問い合わせ

株式会社デサント CSR室

TEL:06-6774-0327/FAX:06-6774-2605

当社CSRサイト

<http://www.descente.co.jp/jp/csr/>